

YAサポーター'sレポート2015

中央図書館では2015年6月から9月まで、3人がサポーターとして活動しました。おすすめの本を紹介してくれました。

(書名をクリックすると、ご覧の画面から蔵書検索ページに移動します。)

「本のタイトルに気分で惹かれたとき」の本

[『号泣する準備はできていた』江国香織／著（新潮社）](#)

号泣したいわけではなかったのですが、タイトルに惹かれました。

人生という複雑な迷路のようなものに入り込んでいる人たちのふとした時間が、短編となって詰め込まれている本のように私は感じました。とつても内容が難しく本で、最後まで読むとスカットするといった本でもないですが、どこか落ち着いて静かな気持ちになれ、また先へ行こうという気持ちにもなりました。

短編小説なので、長い話はちょっと...。と思う方にもおすすめです。

ちょっと困っているときや、どうしようもないとき、タイトルのように号泣したいときなど、こころがそういったやりきれない感情でいっぱいのときに読むと不思議とスツとはいつてくる本です。ちょっと興味が湧いたら手にとって読んでみるのも悪くないですよ....。

「イッキに読みたくなるようなとき」の本

[『人狼ゲーム』川上亮／著（AMG出版）](#)

「みなさんにはこれから人狼ゲームとよばれるゲームをプレイしていただきます。」

突然何者かに誘拐された主人公仁科愛梨達北摂高校の男女10人は、突如生死をかけた殺戮ゲームに巻き込まれる...。最後に生き残るのは人狼か、はたして村人か...!?怒涛のクライマックスのある、推理小説第1弾。

最初の方は、内容がわからず理解できない所もあるけれど、理解してもう一度読み直してみると、とてもおもしろくて、次に読むときはイッキに読んでしまうような本です。

人狼ゲームはほかにも、BEAST SIDE、CRAZY LIKE A FOXの2作もあるので、人狼ゲームにはまったらぜひ一緒に読んでみてください!!

「童話が苦手な人にオススメ」の本

[『偽恋愛小説家』森晶磨／著（小学館）](#)

名前が「偽恋愛小説家」というだけあって主人公の編集者である井上月子の担当している作家、夢宮宇多は恋愛小説家ですが恋愛小説家ではありません。

童話が苦手な人にオススメするだけあって、シンデレラや眠り姫などの話を変わった解釈をしていき、少女の夢をどんどん壊していきます。

私はこの本を読んで、有名な眠り姫も原作は話の終わり方が違うのだなー、と思いました。

この本を書いた作家さんは森晶磨という人で、ほかの作品もとても面白いです。まずこの本を読んでみて面白いと思ったら、他の作品もぜひぜひ読んでみてください。